

令和6年度協働事業実施に係る
提案の審査について

答 申

令和6年3月18日

水戸市協働推進委員会

目 次

令和6年度協働事業実施に係る提案の審査

審査結果及び全体講評	1
各事業の概要及び委員会意見	2
選考過程・基準	7
委員名簿	9

令和6年度協働事業実施に係る提案の審査

審査結果及び全体講評

【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

推薦する事業

- 空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業
- ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」
- ふるさと教育「御老公と行く！私たちの水戸」
- キッズトレイルランニング大会

推薦しない事業

- ひごろ防災子ども食堂とひごろ防災啓発活動

【 全体講評 】

令和6年度水戸市協働事業の公募に対しては、前年度からの継続が3事業、新規が2事業あわせて5事業の協働事業が提案され、2月26日に公開プレゼンテーションが実施された。

新規の提案事業は、水戸の歴史をこどもが主役となって考える事業や、こどもの防災意識の向上を目的とする事業など、若い世代を対象とした提案であった。今後も、行政と市民活動団体の双方の強みを生かし、幅広い世代に向けた協働事業の実施を望む。

令和5年度は、新型コロナウイルスの影響が続くなか、様々な工夫をしながら、事業を実施することができたところであるが、実際に事業を実施して得られた成果や新たな課題等については、今後の事業展開に活用し、さらなる発展を期待する。

継続3事業のうち1事業は、令和6年度が協働事業提案制度を活用した協働事業の最終年度となるため、当制度の活用終了後を見据え、連携団体等への丁寧な説明に努め、賛同団体を拡充していくことが重要である。本委員会としても、実施団体の活動へのサポートに努めていきたい。

いずれの事業についても、実施に当たっては、提案団体と市協働担当課において十分に協議し、補助金の適正な運用及び予算の適正な執行を心掛け、より効率的かつ透明性のある事業運営に努めてほしい。併せて、ポストコロナ、ウィズコロナに向けて、市民ニーズを把握し、適切に事業へ反映させるなど、新たな活動への展開に努めていただきたい。

各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業	推薦する (210点)
提案団体 特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート	市の担当課 生活安全課	
事業の概要	<p>関連事業者や専門家と連携した「空き家に関するワンストップ総合窓口」を設置し、水戸市内の空き家を現在所有する方、現在所有の住まいが空き家となる可能性がある方及び相続等の理由により、空き家を所有する可能性のある方に対して、適切な助言・提言を行う。また、空き家関連のセミナーや個別相談会を開催する。</p> <p>空き家所有者の負担軽減を目指し、地域の活性化と地域住民の不安を解消し、誰もが安全に安心して住むことができるまちづくりを目指す。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、ワンストップの総合相談窓口を設置することで、空き家所有者や、今後、空き家を所有する可能性のある方へ、適切な助言や提言を行うとともに、空き家の適正管理や利活用に関する支援を行い、複雑化する空き家問題について、空き家所有者等の負担軽減及び地域住民の不安解消等を目的とした提案であった。</p> <p>今後、さらに空き家の増加が懸念されるなか、市民ニーズが高い課題であり、提案団体と市協働担当課の役割分担を双方で確認しつつ、ワンストップ総合窓口の円滑な運営に取り組んでいただきたい。また、個別相談会やセミナーを通して、空き家にかかる市民の不安を取り除いていただきたい。</p> <p>一方で、事業経費の半分程度が、市報への広告宣伝費に充てられていることから、事業実施に当っては、費用対効果を鑑み、提案団体と市協働担当課において十分に協議した上で、事業経費の配分について、慎重に検討していただきたい。</p> <p>本事業をきっかけとし、空き家に関する多くの市民の不安をやわらげ、安全で安心なまちづくりに寄与することを期待する。</p>	

提案事業名	ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」	推薦する (190点)
提案団体 特定非営利活動法人ちいきの学校	市の担当課 高齢福祉課	
事業の概要	<p>高齢者ドライバーの事故や免許返納問題に加え、新たに75歳以上に設けられた免許更新時の認知機能検査などに不安を抱える方も多い。当事業では、運動を通して身体的機能（筋力、反射力、柔軟性）や認知機能の維持を目的に市民の皆様をサポートする。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、高齢者が運転する自動車事故や運転免許証の返納等を理由に移動手段や行動範囲の制約に不安を抱える高齢者に対し、運動を通して、身体的機能や認知機能の維持・向上をサポートすることを目的としており、シニア層の健康づくりに取り組む提案であった。</p> <p>専門性の高い運動指導者や運転適性検査指導員の指導のもと、専門的な器具を使用した運動を行い、きめ細やかな助言を行うとともに、高齢者支援センター等での認知機能低下者の把握にもつながっている。</p> <p>事業実施に当たっては、認知機能及び運動機能を維持するために、講座に継続的に参加できる体制を整備していただきたい。講座を7回受講するだけで受講者の取り組みが終わってしまうことのないようにするため、受講者が受講後も安心して自動車運転を続けることができるアフターフォローを行う必要がある。担当課においても、地域のニーズの高さから、より多くの人に参加できるように連携を図っていただきたい。</p> <p>シニア層の健康維持・増進を図りながら、運転継続をサポートする本事業が市全体に広がっていくことを期待する。</p>	

提案事業名	ふるさと教育「御老公と行く！私たちの水戸」	推薦する (189点)
提案団体 一般社団法人水戸葵社中	市の担当課 生涯学習課	
事業の概要	<p>こどもたちが自分たちの目線で「ふるさと・水戸」の歴史、今、未来を考え、調べたことを、過去からタイムスリップして現代に来た水戸黄門様へ教える動画を作成し、自分たちのふるさとである水戸市について、一緒に考える機会を作る。</p> <p>また、市内の歴史的建造物文化財などを市内小学生とともに考えていくドラマ形式の動画を作成し配信することで、ふるさとについて学ぶ機会を提供する。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、水戸市内の小学生を対象として、小学生が水戸黄門とともに水戸のことを調べ考えたことの動画を制作することで、ふるさとの水戸に対する理解を深めながら、水戸市の観光のPRにもつながる新規の事業として、これまでになかった取り組みである。</p> <p>タイムスリップした水戸黄門の設定については、対外的に配信する動画として、歴史に基づいた脚本や演出が重要であり、専門家の意見も交えながら慎重に制作していただきたい。また、シナリオの作成については、こどもたちが主体的に考えたアイデアを尊重し、進めていただきたい。</p> <p>参加するこどもについては、小学校区単位で動画を制作する上で、地域のこども会やPTAとも連携しながら、効果的に呼びかける方法を検討していただきたい。</p> <p>本事業をきっかけとし、こどもたちが主体となって活動に加わることで、水戸の歴史やふるさとへの理解が深まるとともに、動画の配信を通して観光需要の高まりや水戸市の活性化につながることを期待する。</p>	

提案事業名	キッズトレイルランニング大会	推薦する (200点)
提案団体 株式会社ナムチェバザール	市の担当課 農政課	
事業の概要	<p>自然の中でのアウトドア体験を通じて、豊かな心を育み、生きる力を身に付ける新しい教育のニーズが昨今高まっている。</p> <p>水戸市内という近しい距離で、驚くほどの豊かな自然と触れ合うことができる水戸市立森林公園は、こうしたニーズに応えられる貴重な地域資源である。公園設備だけでない環境資源としての大きな魅力を、子どもたちに広く伝える必要がある。森林公園の自然環境をより身近なものとして、子どもたちの教育・健康増進に活用していくために、トレイルランニング大会を通じてその価値をアピールし、優れた環境を次世代へとつなぐ礎を築いていく。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、森林公園の持つ豊かな自然環境を活用して、子どもを対象としたトレイルランニング大会を開催し、自然の中で身体を動かす楽しみを通して、子どもたちの環境への関心向上を促進するとともに、健康増進に寄与することに加え、本公園の地域資源としての魅力を広く発信することを目的としている。</p> <p>令和4年度の反省を踏まえ、令和5年度に開催した当大会では、早走り終えた子どもを対象に木工体験を行い、時間を有効活用することができ、子どもや保護者にとって貴重な体験となった。</p> <p>一方で、前回の大会からの参加者は全体の3割程度であることから、トレイルランニング大会の魅力度をより高め、次年度も参加したいと思ってもらおう工夫をしていただきたい。</p> <p>また、本事業においては、「環境保全マインドの向上」を提唱しているが、トレイルランニングを通じて、森林公園の自然を守るための環境に対する意識を醸成することにもつなげていただきたい。</p> <p>協働事業提案制度を活用した協働事業としては、令和6年度をもって最終年度となるが、協働事業終了後も、子どもたちに自然体験の機会を提供できるよう、経費削減や協賛等を検討しながら事業を進めていただきたい。</p>	

提案事業名	ひごろ防災子ども食堂とひごろ防災啓発活動	推薦しない (161点)
提案団体 復興支援プロジェクト水戸	市の担当課 防災・危機管理課	
事業の概要	<p>市民が災害から自らの命を守ることができるよう、こどものうちから、学校教育とともに、ひごろ暮らしの中に、必要な防災知識や主体的な防災行動を身に着けることができる人材育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひごろ防災子ども食堂における炊き出し訓練 ・予防の大切さを学び、家庭生活に役立てる防災食育事業 ・ボランティアリーダーの育成 など <p>取りこぼしのない社会をつくる「水戸のよさ、ひとのよさ、復興支援プロジェクト水戸」を展開し、こどもたちに対する防災意識の啓発と人を助けるこころを育むことを目的とする。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、令和6年能登半島地震の復興支援から、こどもたちの防災意識の啓発を行うために集結したメンバーにより、若い世代の防災意識向上と実践を目指す提案であった。</p> <p>事業内容について、令和3年度から令和5年度にかけて実施したNPO法人Happyリレーいろいろと公園緑地課の協働事業である「公園にハートいっぱいのを蒔こう」の事業と重なる部分が多く見られるため、提案団体である復興支援プロジェクト水戸との区別がつけがたく、継続事業と捉えられる。防災に関する事業だけでなく、梅まつりの観光案内や、水戸観光コンベンション協会青年部と連携し若い世代とつながることなどが含まれていることで活動内容が混在しているため、焦点を絞り、事業計画の再検討や、分かりやすい事業運営が求められる。</p> <p>また、提案団体は、令和6年1月1日に設立したばかりであり、活動理念に沿った実行性のある事業計画を時間をかけて再度練り直していただきたい。</p> <p>本事業は、審査の結果、残念ながら基準点を下回ったが、頻発する災害に対する防災意識の啓発は、世間の関心度が高い。関連団体との連携を深めながら、防災の啓発活動を行っていただきたい。</p>	

選考過程・基準

【 選考過程 】

協働事業提案書をもとに、2月26日に実施されたプレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審査において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審査した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むに当たって、提案団体と市の担当課がさらに協議を深めるべき事項について意見をまとめた。

【 選考基準 】

提案書類とプレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に沿って採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割にあたる168点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分	備考
委員長 金本 節子	茨城大学名誉教授	学識経験者	出席
副委員長 大野 覚	認定NPO法人茨城NPOセンター・commons 常務理事・事務局長	NPO代表	出席
渡辺 賢治	常磐短期大学 幼児教育保育学科准教授	学識経験者	出席
谷萩 美智子	水戸市ボランティア連絡協議会 会長	ボランティア 団体代表	出席
大竹 隆志	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 常任理事	コミュニティ 団体代表	出席
鹿倉 よし江	水戸女性会議 会長	女性団体代表	出席
山辺 太	水戸商工会議所 事務局長	関係団体	欠席
大久保 惣太	水戸青年会議所 理事長		欠席
小島 幸子		公募市民	出席